大学生による授業評価アンケート作成の試み

ー大学生はどのような授業を高く評価するのか？ー

辻　義人

（小樽商科大学教育開発センター）

現在、多くの大学において多様な組織的 FD 活動が実施されている。その代表的な取組として、学生による授業評価アンケート（以下、学生授業評価）が挙げられる。学生授業評価の目的として、以下の２点が挙げられる。第一に、各教員の授業改善の指針の獲得である。教員は、自らの講義に寄せられた意見や感想から、学生の興味や関心の所在や、授業運営に関する手がかりを得ることができる。第二に、教育機関としての質保証である。学生は、どの程度授業を理解し満足しているのだろうか。この点について、大学としての教育活動の適切さの検証が可能である。近年、大学 FD 活動への学生参加が活発化しており、多くの事例が報告されている（木野,2012）。その一方、学生授業評価における学生参加に注目したとき、この分野における学生と教職員との協働事例はほとんど見られない。学生が授業評価項目の設計に関与することによって、学生はどのような観点から授業を評価しているのか探ることが可能である。また、学生授業評価に対する意識の向上が期待される。

このことから、本研究では、学生に授業評価項目を作成・実施させ、学生の「よい授業」の評価基準に関する知見を収集する。同時に、学生授業評価における学生参加の可能性について検討する。

【方法】

調査は 2011 年 7 月に実施した。被験者は学部二年生５名であった。被験者に対して、これまでの自身の受講経験に基づき、授業評価アンケートの項目を作成させた。その後、作成したアンケートを実施し、その結果について集計した。

【結果と考察】

（1）学生による授業評価項目の作成　学生に授業評価項目を作成させた結果、10 項目（YES/NO）からなる評価基準が作成された（表1）。この結果より、学生は授業を通して得られる知識や技能だけではなく、単位取得に要する負担についても注目していた。これらの項目は、必ずしも授業改善の指針として適したものではない。学生の授業評価項目の設計参加に際しては、教職員と学生との学習観に関する十分な議論が必要である。

（2）学生による学生授業評価の実施　学生による学生授業評価を実施した結果、多くの学生が「授業の面白さ」や「説明のわかりやすさ」をよい授業の条件と考えていることが示された。一方、単位取得に要する負担は、よい授業の条件と考えられていない結果が伺える。この結果は、単位取得が容易な科目は、必ずしも学生にとって、よい授業と見なされていないことを示唆している。

【結論】

・学生は、よい授業の評価基準として、授業の面白さや説明のわかりやすさに注目している。単位取得の容易さより、知識や技能獲得が重要である。

・学生が設計する授業評価項目は、必ずしも授業改善に資するとは限らない。学生が評価項目の設計に参加する前提として、教職員・学生間において十分な意見交換が必要である。

表１　学生による「よい授業」評価賛同率

質問項目	賛同率
授業内容の面白さ	81.6%
説明のわかりやすさ	80.2%
出席点がある	77.4%
レポート課題がない	75.6%
宿題が少ない	74.4%
将来に役立ちそう	67.4%
単位取得が簡単	66.3%
先輩・友人が勧める	58.3%
評価が甘い	55.2%
テストが簡単	51.3%

（N=87，男子学生 41 名，女子学生 46 名）